

ありがとう から始める 地域活動

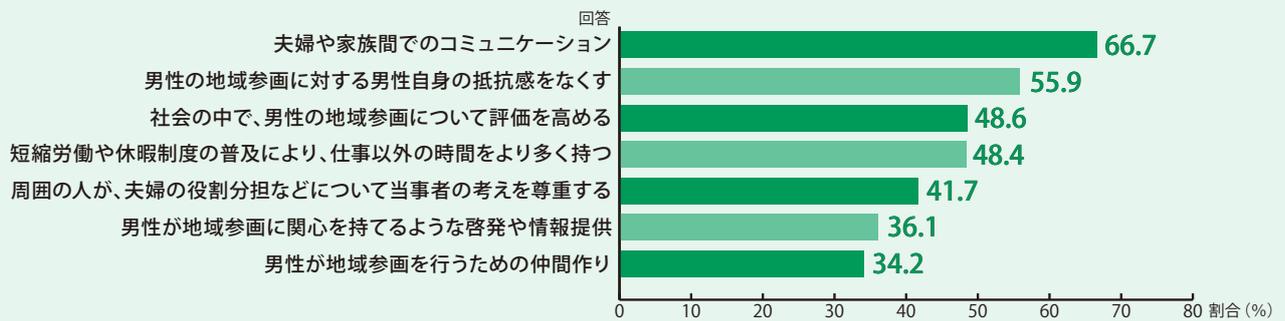
内閣府では男女共同参画に関する世論調査を行い、「男性の地域参画(※)に必要なことは？」という質問をしています。その回答結果が以下のグラフです。

※男性が家事、子育て、介護、地域活動に参画することを「男性の地域参画」としています。

夫婦や家族間のコミュニケーション

「男性の地域参画に必要なこと」として上位にあげられたのは、夫婦や家族間のコミュニケーションや男性の地域参画に対する抵抗感の払拭、仕事以外の時間をより多く持つといった意識改革であると考えられています。

男性の地域参画に必要なこと(複数回答)



http://www.gender.go.jp/policy/men_danjo/pdf/basic/siry04_

男女共同参画に関する世論調査(2012年 内閣府)

特に7割近い人が必要と感じている「夫婦や家族間のコミュニケーションをよくはかること」は、男性の地域参画にとっては重要なことといえます。今号で紹介した「男の生き方塾」や、その卒業生であるサードエイジサロンの話しは、身近なお手本となるでしょう。

そのサードエイジサロンがメンバーに夫婦間のより良いコミュニケーション法を伝えていきます。その中には「そうだね」「わかるよ」「その通りだ」と共感すること、また感謝の心得として「ありがとう」「愛している」と気持ち素直に言葉で言うことを広げているそうです。長年連れ添ってきた夫婦でも、一人ひとり異なる存在です。言葉にやさなくても心が通じ合っていることは素晴らしいことです。素直な気持ちを声に出して家族に伝えてみてはどうでしょう。きっと新しい発見があるはずです。

男性の地域参画

男性の地域参加の具体例としては、サードエイジサロンでは、キッズな大森で第3木曜日にベビーカーのメンテナンスを行っています。大変好評のた

めキッズな蒲田や南馬込児童館でも行うようになりました。またメンバーそれぞれが、大森南の知的障がい者通所授産施設「のぞみ園」の公園清掃のお手伝い、ファミリーサポートでの幼児の送迎、区民大学の企画員、パソコン教室の先生、街歩きの案内人など様々な部門で活動しています。他にも大田区報や町内の掲示板、回覧板に目を通し、身近な地域の情報を収集する方法もあります。

退職後の男性はまず一歩、自分から動いてみてはどうでしょうか。「会社」という世界がなくなってしまう時は、新たに別の世界に飛び込んでいくには不安もあり勇気もいるでしょう。でもその不安は多くの男性が経験してきた道です。「何かやろうかな」とふと思っただけで、一歩踏み出すことが大切なのです。そして現在働いている男性は、ひかる一平さんのように得意分野を生かし、地域や社会に貢献する活動をはじめてみてはいかがですか。

「ありがとう」と言われる喜びは「ありがとう」と言う行動から。感謝の言葉がコミュニケーション力につながり、地域活動を広げていくことでしょう。